

第二節 指導方法・教育環境

第二項 個別指導のねらいと工夫

個別指導という言葉を知ると、多分、教師と子どもが一对一で学習している状態をイメージされるかと思います。また、子ども一人一人の実態に応じた指導を考えた時、個別の指導計画は指導を有効に機能させるための重要なツールになります。この項では、知的障害養護学校における自閉症の子どもへの個別指導について、個別の指導計画との関連や指導内容、指導方法について考えてみます。

1. 個別の指導計画と個別指導

個別指導とは、教師が子どもと一对一で行う指導の形態を表す用語です。1時間の学習を取り出して個別指導で行う場合もありますが、集団指導の中で時間を区切って個別指導を行うことも考えられます。たとえば、ある授業の前半をその学級集団で共通の学習内容に取り組んだ後、個々に分かれて一人一人の学習課題に取り組む場合があります。その際、教師が時間を分けて個々に指導する場合も個別指導が成立します。

個別指導という指導の形態がもつ意味は、集団指導では十分に効果が期待できない内容を一对一で指導することにより、確実な定着を目指すことにあります。ですから、単に取り出して個別に指導すれば効果があるなどと漠然と考えるのではなく、集団指導の工夫やその際の複数教師の役割の明確化、さらに成果を期待できる計画が必須です。

さて、そのような個別指導を行う際に、個別の指導計画は重要な意味を持ちます。学習指導要領では、自立活動および重複障害のある子どもの指導において個別の指導計画を作成し、適切な対応を行うことを義務づけています。しかし、教科の指導や他の領域の指導においても、個々の状態に応じた個別の指導計画を作成することが望ましいと考えます。

個別の指導計画は、教育課程や単元の指導計画などに基づき、子ども一人一人の具体的な目標や指導内容、指導方法等を明示し、日々の授業に生かすものです。そのため、各教科等の個別の指導計画におけるねらいを、そのまま一对一での個別指導のねらいに連動させる必要があります。さらに、個別指導の成果を集団活動などでも生かす観点から、個別の指導計画を作成することも重要でしょう。

2. 個別指導における指導内容および指導方法

知的障害養護学校においては、複数の教師が役割分担をしながら、集団を対象として指導を実施し、自閉症の特性には、授業場面で個々に配慮するという手法を取っていることが比較的多いと考えられます。基本的に知的障害養護学校においては、将来の社会参加を目指し生活に生きる具体的な内容を取り入れて指導が行われていますが、場合によっては、それらだけでは自閉症の特性には十分でない場合があるので、適切な指導内容や方法を検討する必要があります。

第二節 指導方法・教育環境

(1) 自閉症の特性を踏まえた指導内容および指導方法

一般に、自閉症の子どもは、対人関係を形成したり、自分を取り巻く環境を認知し、環境からの様々な情報を適切に、あるいは総合的に理解して状況を把握したり、判断することが難しいという特徴があります。また、自分の周囲の重要な事柄に注意を集中することも苦手な場合が多く、さらに、初めて経験することや見通しがもてないときなどは非常に不安になる傾向があります。そうした特性を踏まえて、自閉症の子どもに必要な内容を設定し、指導方法を考えることが必要です。

同様に、自立活動における個別指導においても、その指導内容の選択や指導方法の工夫では、自閉症の特性を十分に考慮することが重要です。自立活動における指導内容5区分22項目は、あくまでもエッセンス(要素)であり、項目が個々の指導内容や目標になるわけではありません。ですから、個別の指導計画を作成する際には、子どもの実態から、自閉症の特性を踏まえた上で、知的障害に随伴してみられる顕著な発達の遅れや、配慮を必要とする様々な状態に対して、どのような指導が必要か、指導方法としてどのような手続きをとればいいのかなどを検討することが大切です。

たとえば、学校生活のルール理解や学習レディネスが十分に育っていない自閉症の子どもにとっては、時間を設けた取り出しの個別指導が必要でしょう。それは、情報の与え方や見通しを持たせる等、上述した自閉症の特性を踏まえて指導することで効果も違って来るからです。

(2) 教科別の指導における個別指導

教科別の指導における個別指導では、個別の指導計画におけるねらいに基づいた指導を効果的に行うことが必要です。その際、集団での教科別の指導における状態を把握し、補完的に指導したり、発展的な内容を特化して指導したりするなどが大切です。

たとえば、「買い物」についていえば、金銭を使うことや品物を選ぶことも重要ではありますが、自閉症の子どもにとっては、まずは店員や店の雰囲気になれ、ある特定の品物を確実に買えるようにすることが重要と考えられます。それらは、単に同様の経験の積み重ねだけによって実現できるものではなく、特性に応じた事前学習や、場合によっては、言語を用いないコミュニケーション手段の活用などを個別指導の内容として付加することも必要となります。



第二節 指導方法・教育環境

(3) 個別指導での留意事項

自閉症の子どもの指導では、内容や指導方法の順序性に固執せず、本人の興味関心を優先して指導内容や指導方法を決めることも有効です。

さらに、個別指導では、教師が担当する子どもを定めて継続的に指導することが多いと考えられますが、そうした指導者の固定化による弊害もあることから、個別指導における内容や方法を複数の教師で共通的に理解したり、子どもが混乱のない範囲で担当を変えたりするなどの工夫も大切だと思います。

自閉症の特性に応じて対応を体系化したTEACCHプログラムの一つに、環境の構造化という考え方があり、周囲の情報を適切に理解し、また見通しをもちやすくするために有効とされています。具体的な方法としては、教室場面を使用目的によって仕切ったり、注意を集中して課題に取り組めるようにブースを個々に設定したり、活動の始めと終わりを明確にして活動内容を分かりやすく提示したりするなど、指導方法としての工夫が考えられます。

しかし、それらの対応を画一的に適用したり、単なる指導技法として取り入れたりすることは適切ではなく、個々の自閉症の子どもの状態によって多様な方法を用意することが大切です。例えば、文字が読めない子どもに対しては、実物、絵、写真などの提示があります。また、注意を集中しやすくするためのブースも、子どもの心理的な状態に応じて、使用頻度やブースの形状を変えたりします。このような考えに基づく環境の構造化は、一対一の個別指導はもちろん、集団指導の際の配慮としても重視すべきです。

また、個別指導では、教師と子どもが対面して向き合う場面が多く見受けられますが、教師が隣に座り、真正面からの言葉などの刺激をさけた方がより効果的な場合もあります。また、話しかける声の大きさや聞き取りやすい言葉かけなど、個々の子どもによっても異なりますから、個々の指導を通して適切な対応を探っていくことも大切です。

3. 個別指導における評価

集団指導のねらいと工夫の項でも記述があるように、自閉症の子どもは、指導者とは違う人や他の学習場面では、学習した成果を十分に出すことが難しいといった特徴があります。ですから、ある教師の個別指導の場面で出来たことを、次は別な教師との個別指導でも出来ているか、さらに他の子どもが入った集団活動でも出来るかを確認(評価)しながら、常に個別の指導計画と連動させることが重要です。個別指導での評価は、子どもの評価であると同時に、教師の指導結果の評価でもあります。したがって、子どもの個別指導場面の観察を十分に行いながら、指導計画に無理がないか等を見直すことが大切です。

4. 知的障害養護学校での個別指導の取り組み

平成13年度から15年度にかけて、文部科学省の研究開発学校として指定を受けている鳴門教育大学学校教育学部附属養護学校が、「自閉症の児童生徒のための指導プログラムの開発」という

第二節 指導方法・教育環境

研究テーマを掲げ、自閉症に適した教育の観点から、特に、自立活動におけるコミュニケーションの指導と、その般化（成果を生活の中で応用していくこと）について取り組んでいます。鳴門教育大学では、個別指導を取り出しの指導のみと捉えるのではなく、集団指導の一部に個別指導を導入するなど、個々の子どもの状態に応じた柔軟な対応を学習場面で展開しています。

また、都立中野養護学校では、平成14年度から15年度において文部科学省の盲・聾・養護学校専門性向上推進モデル事業の指定校として、自閉症の教育課程やその指導内容・方法等を研究しています。平成15年度は、小学部・中学部に自閉症の仮学級を設置し、その学級での指導の成果と課題を明らかにしながら、平成16年度から実施する自閉症学級の正式発足を目指しています。中野養護学校においても、個別指導を取り出しの指導のみと捉えるのではなく、1時間の学習場面で集団指導と個別指導を組み合わせながら行っています。

5. まとめ

個別の指導計画を作成する段階で、自閉症の子どもの実態把握を十分に行うことは言うまでもありませんが、教師が、個別指導での子どもの観察結果を常に指導計画に反映させようと意識することは重要なことです。

国立特殊教育総合研究所文献

有澤直人（2002）情緒障害通級指導教室における自閉症教育－障害の理解啓発のための取り組み－。自閉性障害のある児童生徒の教育に関する研究第5巻，国立特殊教育総合研究所分室一般研究「通常の学級における自閉的傾向の児童の教育に関する研究」報告書，67－81。

林恵津子・谷口清（2001）自閉性障害教育の在り方を探る－合衆国ボストン近郊の自閉症専門校の発行資料から－。自閉性障害のある児童生徒の教育に関する研究第4巻，国立特殊教育総合研究所分室一般研究「自閉的傾向のある児童の社会性の発達と教育的支援に関する研究」報告書，41－54。

廣瀬由美子（2000）情緒障害特殊学級での自閉症児の社会性を高めるための指導－特に自発行動を促す学習環境の構造化を中心に－。自閉性障害のある児童生徒の教育に関する研究第3巻，国立特殊教育総合研究所分室一般研究「自閉症児・学習障害児の社会性の発達に関する研究」報告書，71－82。

落合みどり・東條吉邦（2003）ADHD児・高機能自閉症児における社会的困難性の特徴と教育。平成14年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））自閉症児・ADHD児における社会的障害の特徴と教育的支援に関する報告書，1－21。